

つくし だより

2011年1月号

NO. 247

〒156-0056 世田谷区八幡山3-33-1 林マンション202

TEL/FAX 03-3304-1108

東京都精神障害者家族会連合会

(通称 東京つくし会) 2011. 1. 15

今年の抱負

都連会長 野村忠良

今すぐ家族の回復や理想の社会を実現させようと思うと目の前には途方もない困難が立ちはだかりますが、結果は天に任せて、自分のやるべきことをやれる間にやれるだけ最善を尽くして成し遂げようと決意すれば、それはできます。苦虫を嘔み潰したような悲壮な頑張りではなく、同志とともに離れたところから自分のありのままの姿を眺めて滑稽さを見出し、お互いに告白し合ってところの底からそのおかしさを笑いながら活動しているといつの間にか成し遂げるのです。

東京つくし会では昨年来、会の活動をさらに充実させるために会則の見直しを行っており、今年の評議員会で改正が成立する見通しです。新しい会則では、重症の統合失調症だけの小さな範囲での法制度改善ではなく、社会全体の利益としての精神保健福祉分野での法制度改革を目指しています。市民一人ひとりが健康で幸せに生きていける社会の実現を願いつつ、こころの健康を損なっても普通の市民として安心して生きていける社会の実現を図ります。具体的には、統合失調症以外の精神疾患やこころの健康に関する問題で苦しんでいる方々と連携して活動を行います。

その一端として、昨年12月には親族の自死で遺族が負わされる深刻な被害を防ぐための法律制定を国に求める署名運動に当会が協力し、遺族連絡会の世話人と協力者である高名な精神科医から感謝のお手紙を頂きました。また、今年2月には東京都自閉症協会の会長の方と当事者の方に当会の理事研修会において頂き情報交換を行う他、東京都への要望書提出においても連携します。今後はさらに、その他の関係団体とも手をつなぎ、活動の質を高めていきます。

また、昨年からは始めた家族相談員養成講座では、今年3月で理事11名と相談役・事務局員各1名の受講が終り、4月からは新たに会員53家族会から15名の受講希望者を募り1年間3回連続の講座を実施します。毎年15名ずつ養成して都内の各家族会での市民相談能力を高め、社会への貢献度を向上させます。

東京つくし会は社会を精神保健の面から明るくする活動に励み、誰でも安心して暮らせる福祉社会の構築を提案し、精神疾患にかかっても障害が軽く済み真の回復が得られる医療の実現に寄与する団体へと成長することを願っています。

関係者の皆様には当会の願いが達成されますよう、ご指導、ご支援を頂きたく、よろしく願い致します。会員の皆様には、少しでも明るい出来事が実現する年となりますよう、こころからお祈りしています。どうぞ良いお年となりますように。



東京都第30回ふれあいフェスティバル

都連会長 野村忠良

去る12月6日、豊島公会堂において東京都の障害者週間記念行事として標記の催しがありました。表彰式典では東京つくし会からの推薦で川崎洋子副会長（みんなねっと理事長）が支援功労者として表彰を受けました。

続いて舞台では障害当事者であるプロの音楽家グループによる演奏、当事者劇団の演劇や施設利用者の方々の三味線合奏、小学生の合唱などが披露されました。

毎年お招きを受けていますが、いつも入場者が少ないことと今回は「障害者」として生活なさっている当事者からの訴えがなく、啓発の面での物足りなさが気になりました。毎年社会に明るい希望を一つひとつ増やしていくような建設的な企画はできないものでしょうか。



蟻塚亮二先生講演会のお知らせ

都連事務局

来る2月9日、下記の要領で精神科医の蟻塚亮二先生の講演会が開かれます。これは、東京都精神保健福祉民間団体協議会（都精民協）が東京都から委託されている啓発事業の一環として開かれますので、一般の都民が優先です。FAXか葉書で申し込みますが、もし申し込みが定員（250人）を超過した場合には、家族にはご遠慮頂くことになっています。

題名：うつ病を体験した精神科医の「うつ」「統合失調症」への対応
日時：2月9日（水）14：00～16：00 開場13：30
場所：都庁議会棟1階 都民ホール（新宿区西新宿2-8-1）
参加費：無料

申し込み：FAXまたはハガキで（1月31日締め切り）住所・氏名・連絡先明記で以下の宛先へ

[FAX・・03-5272-8621]

[ハガキ] 〒115-0042 北区志茂2-23-7-3F

NPO法人わくわくかん宛

問い合わせ：地域生活支援センター あさやけ Tel 042-345-2077
※入場頂けない場合のみご連絡いたします。



100万人署名推進委員会主催で12月11日街頭署名活動実施

都連理事 小笠原勝二

100万人署名活動にご協力いただきありがとうございます。先の12月11日（土）新宿駅東口前および西口前にて、東京つくし会会員有志も含め全国各地から約170名の方々が大集合し、こころの健康政策構想実現会議主催で街頭署名活動が盛大に行われました。この様子が100万人署名推進ニュースとして公開され、参加者の投稿が掲載されていますので、その一部を抜粋してご紹介いたします。

「精神疾患基本法制定の署名にご協力を」など書かれた黄緑色ののぼり旗が立ち並ぶ中、黄色いたすきを身につけ、道行く人にチラシを渡し、署名を呼び掛け、カンパのお願いをしました。また、車上からのリレートークでそれぞれの思いを訴えました。当事者も家族も精神科医師も支援者も、みな臆することなく、自分たちの体験から日本の精神保健医療体制の貧しさを語りました。「50年間精神科医師として診療をしてきたが、当事者や家族が堂々と自分たちの実情を訴える日が来ることなど想像もできなかった。今日は記念すべき日である。」というスピーチが、今も耳に残ります。自ら署名をしてくださる方もいれば、知らん顔で通り過ぎる人もいました。その様子を見て、当事者も家族も精神疾患を体験する前は「通り過ぎる人の1人だった」ことを思い出し、だからこそ、こころの健康の問題は他人事では

ないと訴え続けねばとの思いを新たにする体験でした。午後1時から午後4時までの活動で約1000筆の署名が集まりました。なお準備および実行に当たってはさまざまな団体のみなさまに多大なるご協力をいただきましたことお礼申しあげます。



署名集め中間報告

都連事務局 嶋倉

つくし会事務所には、日々、あちこちから署名が届き、専用の箱がいっぱいになりました。外は北風が冷たいですが、皆さまの熱意を感じる毎日です。お陰さまで、12月20日現在で事務所に届いた署名は、12,140筆になりました。また、募金を計算しましたところ、120,780円になりました。一筆一筆に込められた思いがどうか議員に届き、政策に反映されますように祈っています。

これらの署名とカンパは、こころの健康政策構想実現会議の署名活動事務局であるやどかり情報館に集められ、12月25日に中間集計されます。結果は署名ニュースで報告されます。最終期限は3月4日です。日々、厳しい状況下でお過ごしのことと思いますが、これからも、もし機会が見つけられれば積極的に集めてお送り下さいますよう、よろしくお願い致します。



平成22年度第二回東地域ブロック会議報告

都連理事 徳山尚子

去る11月27日に、江東区総合区民センターに12家族会から29名が集まって開かれた。都連役員は8名が出席した。

司会の開会挨拶のあと東京つくし会野村会長が挨拶の中で、「家族の同意がなくても医療保護入院させてもらえるように訴えている。親がいなくても社会の責任としてちゃんと見てもらえる—そういう風に訴えていこうと思っている。入院制度も本人、親が安心できるものに変えていかなければならない、急性症状が出て地域で対応していける、そういう風に変えて行くことを考えている」と述べ、続けて昨年9月3日に第1回、11月5日に第2回が開かれた東京つくし会の会則改正検討委員会に委員として出席した各氏から意見、感想が報告された。

会則改正について、足立区ひだまりの会の三浦氏からは「家族だけではなく一般市民を巻き込んでいくために変えていかなければならない」との意見があった。休憩をはさんで平成23年に東京都へ提出する要望書(案)を各単会あてのアンケートからまとめた8項目と東京つくし会への要望・意見4項目が発表された。さらに議題に縛られない自由な意見のやりとりでは親亡き後の問題に話題が集中し、「親は元気なうちに子どもを地域に根付かせる役目があるのではないか」という意見もあった。終始、熱心な意見がとびかい、次回の東地域ブロック会議は3月26日(土)葛飾たんぽぽ会の協力を得て開催することが決まり予定を20分過ぎて閉会した。



西地域ブロック会議の報告

都連理事 松原のり子

1. 日時：平成22年11月13日(土) 13:30～16:30
場所：渋谷区リフレッシュ氷川 2F多目的室
参加者：12単会中9単会(14名)。つくし会より：野村、松沢、松原

- 当番家族会：渋谷区「太陽の会」、豊島家族会
2. 各家族会からの報告
 - ・どの単会も定例会をきちんと開き、独自の工夫をしている。交流し学習し行政に働きかけている。
 - ・会員の高齢化、会員の減少、新入会員の減少などは殆どの家族会が直面している問題であるが、チラシを作って地域にまき会員を増やそうとしたり、ミニコンサートやバザーを開き地域との連携を深めたり、緊急時に備えて警察や消防にも毎月のニュースを届けたり、他の障害者団体と一緒に行動したり様々な工夫がされている。
 - ・自殺、高次脳機能障害、発達障害など今まであまりなかった相談が多く、苦労しているという報告が目立った。
 3. 行政への要望活動
 - ・どの要望書も切実な家族の思いが滲み出ている。初めて区へ要望書を提出した家族会もあった。
 4. 今後の運営について
 - ・今までどおり2単会が当番をつとめ、次へ回すことになった。
 - ・1年に3回開催する。次は3月初旬。当番はさくら会とあかね会。
 5. 感想：質問や発言が多く活発な討論が行われた。ブロック会議ではこの雰囲気大切だと思う。薬の副作用についても様々な意見が出された。



◇平成22年度 賛助会加入状況 (H22年12月28日現在)

診療所	あきる台病院	3,000円(1口)
	仙川ムラタクリニック	9,000円(3口)
	廻田クリニック	10,000円 (3口+1000円)
平成22年4月1日～平成22年12月28日までの累計：235,000円 (個人1口:2,000円、団体1口:5,000円、診療所1口:3,000円、病院1口:5,000円)		
個人	16口 × 2,000円	= 32,000円
診療所	54口 × 3,000円 + 1000円	= 163,000円
病院	2口 × 5,000円	= 10,000円
団体	6口 × 5,000円	= 30,000円

*ご協力ありがとうございます。



編集後記・・・昨年最後の猛暑日だった9月22日に愛犬アロン(13歳)が急死しました。娘が勤務先で迷い犬と出会い「目があった」と赤帽に乗せて連れ帰った犬でした。狭い庭に残された本格作りの大きく頑丈な小屋。壊すこともできず、思えばぐねて出入り口を下に引っくり返してみました。

すると何とも味わいのある物に変わったのです。嬉しくなり、花の山を作ろうかと想像を膨らませていますと傍にいた当事者である長男が、「かんかいて漢字で寛解ってかくのだね。英語では、リミッション (remission) というのですよ。僕も寛解ですかね。」と突然に話しかけてきました。

いつも摩擦の原因になるKY発言でしたがこの時私は remission から大切な気付きが与えられて感動しました。犬小屋が形も目的も変わったように彼は病によってかつて抱いた希望や願を失った代わりに神様から再び新しい使命を与えられているのではないかと思いました。空気を読めないと思った発言も私が嬉しく思った空気を感じての言葉だったことに気がきました。(都連理事 小川順子)